

一般診断  
現状

## 耐震診断（一般診断法）

建物名 財来一郎(在来軸組構法)

---

1. 総合評価
2. 上部構造評点
3. 壁の耐力明細表
- ~~4. 柱保有耐力明細表 (伝統的構法のみ)~~
5. 偏心率計算表
6. 偏心率計算表 (明細)
7. 劣化度による低減係数 算定表

一般診断平面図

壁材種表示平面図

立面図

日昇産業株式会社

大阪府寝屋川市仁和寺本町4-16-8

TEL (072) 829-0078 FAX (072) 826-4460

# 一般診断 現状

## 1. 総合評価

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)

### 建物概要

調査日	2004年10月01日	診断者	財来一郎		
建物名称	財来一郎(在来軸組構法)	備考	在来工法		
建築地	つくば市東2-31-18	多雪地域区分	一般	係数	0
建物用途	住宅	地震地域係数Z	1.0	係数	1.0
竣工年月(築年数)	1980年9月(昭和55年)(築10年以上)	短辺長さ	2階:6m以上	1階:6m以上	
構法	在来軸組構法	混構造割増	木造	係数	1.0
建物重量	重い建物	軟弱地盤割増	軟弱地盤ではない。	係数	1.0
外壁材種	木ずり下地モルタル塗壁	地盤種別	II 第2種地盤		
外壁材壁強さ倍率	2.2 (kN/m)	基礎形式	II 軽微なひび割れのある無筋コンクリート基礎		
2階床面積	77.84㎡ (23.55坪)	柱頭柱脚接合部	Ⅲ、Ⅳ 3kN未満		
1階床面積	89.43㎡ (27.05坪)	木製筋かい接合部	④ 釘打ち(2-N75程度)以下		
階高	2階:2800mm 1階:2800mm	床仕様	II 火打ち+荒板		
有開口壁の耐力計算方法	有開口壁長による算定	必要耐力計算方法	精算法(各階の床面積比を考慮した方法)		
		配置低減計算方法	偏心率を使用した方法		

### 地盤・地形・基礎形式

地盤	対策	選択	注意事項
よい・普通		●	
やや悪い			
非常に悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行なっている 杭基礎である 特別な対策を行っていない		

地形	対策	選択	注意事項
平坦・普通		●	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁 石積 特別な対策を行っていない		

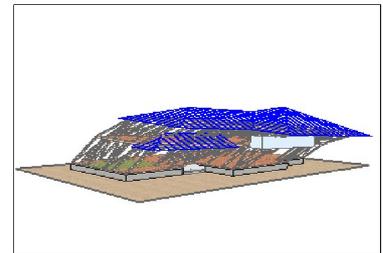
  

基礎形式	対策	選択	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全 ひび割れが生じている		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物が不同沈下しています。地盤改良などにより改善をはかる必要があります。</li> <li>・アンカーボルト、引き抜き金物が十分な性能を発揮できない場合があります。補修が必要です。</li> <li>・地震時に、基礎が曲げ破壊し上部構造の性能を十分に発揮できない可能性があります。</li> </ul> 鉄筋コンクリート基礎などを沿えて基礎を補強する必要があります。
無筋コンクリート基礎	健全 軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている	●	
玉石基礎	足固めあり 足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減係数 eKfl	劣化度低減係数 dK	保有耐力 edQu ※ (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ		
								0.7	1.0	1.5
2	X	34.29	1.000	0.70	24.00	43.60	0.55			
	Y	33.01	1.000		23.10		0.52			
1	X	67.00	1.000		46.90	76.02	0.61			
	Y	82.02	0.968		55.57		0.73			

※ edQu = Qu \* eKfl \* dK



<地震被害想定3次元CG>

### 総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点のうち最小の値	評点	判定
0.52	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上~1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上~1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

<その他注意事項>

一般診断  
現状

2. 上部構造評点

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)

上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減係数 eKfl	劣化度低減係数 dK	保有耐力 edQu = Qu*eKfl*dK (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ			判定
								0.7	1.0	1.5	
2	X	34.29	1.000	0.70	24.00	43.60	0.55				× 倒壊する可能性が高い
	Y	33.01	1.000		23.10		0.52				× 倒壊する可能性が高い
1	X	67.00	1.000		46.90	76.02	0.61				× 倒壊する可能性が高い
	Y	82.02	0.968		55.57		0.73				△ 倒壊する可能性がある

必要耐力 (Qr) (精算法)

階	① 床面積 (㎡)	② 床面積あたり必要耐力 (kN/㎡)	③ 積雪用必要耐力	④ 地震地域係数 Z	⑤ 軟弱地盤割増	⑥ 形状割増	⑦ 混構造割増	必要耐力 Qr (kN)
2	77.84	0.56	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00	43.60
1	89.43	0.85				1.00		76.02

- ①【床面積】 (㎡)
- ②【床面積あたり必要耐力】 (kN/㎡)・・・建物の階数別 建物の重さ別 (軽い建物、重い建物、非常に重い建物)
- ③【積雪用必要耐力】 多雪区域では、積雪深により、積雪1mのとき0.26(kN/㎡)、積雪2mのとき0.52(kN/㎡)を加算する。
- ④【地震地域係数Z】 令第88条に規定する地震地域係数(1.0, 0.9, 0.8, 0.7より選択)多くの地域が1.0
- ⑤【軟弱地盤割増】 地盤が著しく軟弱と思われる敷地の場合は、【必要耐力】を1.5倍する。
- ⑥【形状割増】 いずれかの階の短辺の長さが6.0m未満の場合に、その階を除く、下の階の必要耐力を割増する。
- ⑦【混構造割増】 2階建てにおいて、1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造の場合は、【必要耐力】を1.2倍する。

保有耐力 (edQu) = 壁の耐力(Qu) × 配置(eKfl) × 劣化度(dK)

階	方向	無開口壁の耐力 Qw	その他の耐震要素の耐力 Qe					壁の耐力 Qu = Qw+Qe
			窓型開口壁		掃き出し開口壁		Qe=Fw1*Lw1+ Fw2*Lw2	
			Fw1	壁長 Lw1	Fw2	壁長 Lw2		
2	X	25.75	0.6	10.01	0.3	8.46	8.54	34.29
	Y	27.83		5.46		6.37	5.18	33.01
1	X	58.57		4.82		18.47	8.43	67.00
	Y	76.70		5.46		6.82	5.32	82.02

無開口壁の耐力Qw 「壁基準耐力Fw」「壁長L」「柱接合部による低減係数Kj」の積の総和  
・・・詳細は、「3. 壁の耐力Qw明細表」参照のこと

$Qw = \sum (Fw * L * Kj)$

Fw: 壁基準耐力(kN/m)

間仕切壁、外壁の仕様別(下地材、筋かい、面材等)の基準耐力。筋かい・壁下地材両面の値の和とする。

いずれかの面の壁仕様が不明(耐力有)の場合、Fwは合計と2.00(kN/m)のうち高い方として計算。

L: 壁長(m) 無開口壁の長さのみ。筋かいにおいては、90cm以上を有効とする。面材においては、60cm以上を有効とする。

Kj: 柱接合部による低減係数(1.0~0.2)

壁端柱の柱頭・柱脚の種類により低減する。(但し、基準耐力、基礎の種類別)

接合部Ⅰ・・・平12建告1460号に適合する仕様 接合部Ⅱ・・・羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物

接合部Ⅲ・・・ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(両脇に通し柱) 接合部Ⅳ・・・ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

基礎仕様による低減 (上記に含む) (基礎Ⅰ・・・鉄筋布基礎、ベタ基礎 基礎Ⅱ・・・健全でない基礎 基礎Ⅲ・・・その他)

その他の耐震要素の耐力Qe

$Qe = \sum (Fw * Lw)$

Fw: 窓型開口の場合 0.6[kN/m] 掃き出し開口の場合 0.3[kN/m]

Lw: 開口壁長[m] ※連続する開口の壁長の上限は3.0m

配置 (eKfl) 耐力要素の配置等による低減係数・・・詳細は、「5. 偏心率計算表」を参照のこと

平面四分割法により配置のバランスを算定し、状況により低減する。床仕様により、さらに低減される場合あり。

通常値 1.0 配置が不適切な場合 0.4~1.0

劣化度 (dK) 劣化度による低減係数・・・詳細は、「7. 劣化度による低減係数dK」を参照のこと

劣化の状況により保有耐力を低減する。劣化無し: 1.0 劣化あり: 1.0~0.7 0.7未満となった場合は、0.7とする。

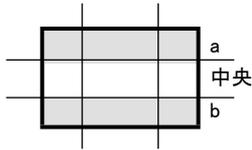
一般診断  
現状

3. 壁の耐力明細表(1階X方向)

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様								壁基準 耐力 (kN/m) Fw	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 Kj	壁の 耐力 (kN) Qwi	
			壁面1	基準 耐力	軸組	低減 係数	基準 耐力	土塗り壁	基準 耐力	壁面2							基準 耐力
桁行 (a)	1	2	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	2	3	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	3	4	木ずり下地モルタル塗壁	2.20						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	1.82	II	IV	0.76	5.11
	6	7	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	9	10	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	11	12	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
桁行 (中央)	20	21	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	1.82	II	IV	0.70	6.24
	21	22	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	II	IV	0.80	2.18	
	桁行(a)耐力 Qwa																30.58
	31	32	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	1.82	II	IV	0.70	6.24
	32	33	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	33	34	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
桁行 (b)	35	36	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	38	39	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	43	44	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	*0.44	2.24
	桁行(中央)耐力 Qwc																20.96
48	49	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						木ずり下地モルタル塗壁	2.20	3.70	0.91	II	IV	0.76	2.55	
51	52	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	*0.44	2.24	
53	54	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	*0.44	2.24	
桁行(b)耐力 Qwb																7.03	

壁の耐力(kN) Qwi = Fw × L × Kj      壁基準耐力(kN/m) Fw = 壁面1耐力 + 軸組耐力 + 土塗り壁耐力 + 壁面2耐力  
 壁の長さ(m) L : 無開口壁のみ      接合低減係数 Kj : 基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種  
 壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種  
 壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面  
 壁の仕様に▲が付いている面は壁高さによる補正がかかっている面、土塗壁  
 壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい(基準耐力は0となる)  
 壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい  
 壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様  
 接合低減係数に\*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

1階X方向合計 Qw	58.57
------------	-------

Qw = Qwa + Qwb + Qwc

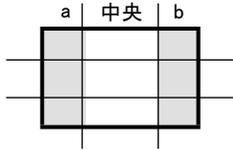
一般診断  
現状

3. 壁の耐力明細表(1階Y方向)

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様						壁基準 耐力 (kN/m) Fw	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部 仕様	接合 低減 係数 Kj	壁の 耐力 (kN) Qwi		
			壁面1	基準 耐力	軸組	低減 係数	基準 耐力	土塗り壁							基準 耐力	壁面2
梁間 (a)	1	13	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	13	18	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	28	37	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	37	42	木ずり下地モルタル塗壁	2.20					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	1.36	II	IV	*0.56	2.81
	3	14	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
													梁間(a)耐力 Qwa	16.16		
梁間 (中央)	4	15	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	15	19	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	29	39	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	39	44	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.36	II	IV	*0.60	2.44
	5	20	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	1.82	II	IV	0.70	6.24
	30	40	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	II	IV	0.70	3.12
	40	45	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	1.36	II	IV	0.70	4.66
	45	47	木ずり下地モルタル塗壁	2.20					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	1.36	II	IV	0.76	3.82
	47	51	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	II	IV	*0.44	2.24
	6	16	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	II	IV	0.80	2.18
8	23	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	II	IV	0.80	4.36	
													梁間(中央)耐力 Qwc	38.42		
梁間 (b)	9	24	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	1.82	II	IV	0.70	6.24
	48	54	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	*0.44	2.24
	12	17	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	27	36	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	36	41	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
	46	50	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	II	IV	0.67	3.41
													梁間(b)耐力 Qwb	22.12		

壁の耐力(kN) Qwi = Fw × L × Kj      壁基準耐力(kN/m) Fw = 壁面1耐力 + 軸組耐力 + 土塗り壁耐力 + 壁面2耐力  
 壁の長さ(m) L : 無開口壁のみ      接合低減係数 Kj : 基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種  
 壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種  
 壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面  
 壁の仕様に▲が付いている面は壁高さによる補正がかかっている面、土塗り壁  
 壁の仕様に△が付いている面、土塗り壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗り壁および長さ90cm未満の筋かい(基準耐力は0となる)  
 壁の仕様に/が付いている軸組はシングル筋かいは、Xが付いている軸組はダブル筋かいは  
 壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様  
 接合低減係数に\*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

1階Y方向合計 Qw	76.70
------------	-------

Qw = Qwa + Qwb + Qwc

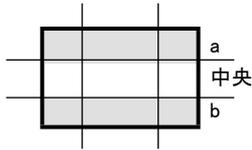
一般診断  
現状

3. 壁の耐力明細表(2階X方向)

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様						壁基準 耐力 (kN/m) Fw	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 Kj	壁の 耐力 (kN) Qwi		
			壁面1	基準 耐力	軸組	低減 係数	基準 耐力	土塗り壁							基準 耐力	壁面2
桁行 (a)	1	2	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	2	3	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	3	4	木ずり下地モルタル塗壁	2.20					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	4	5	木ずり下地モルタル塗壁	2.20					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	7	8	木ずり下地モルタル塗壁	2.20					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	1.82	I	IV	0.31	2.08
	8	9	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	11	12	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	19	20	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	2.73	I	IV	0.35	2.86
20	21	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95	
														桁行(a)耐力 Qwa	12.65	
桁行 (中央)	30	31	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.36	I	IV	0.35	1.42
	31	32	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.36	I	IV	0.35	1.42
	33	34	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	I	IV	0.25	1.11
	34	35	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	37	38	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					木ずり下地モルタル塗壁	2.20	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	39	40	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	40	41	△石膏ボード(非大)	0.00					木ずり下地モルタル塗壁	2.20	2.20	0.45	I	IV	0.63	0.62
	42	43	△石膏ボード(非大)	0.00					△木ずり下地モルタル塗壁	0.00	0.00	0.45	I	IV	1.00	0.00
														桁行(中央)耐力 Qwc	7.73	
桁行 (b)	45	46	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	49	50	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	51	52	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					木ずり下地モルタル塗壁	2.20	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	52	53	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50					木ずり下地モルタル塗壁	2.20	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	53	54	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90		木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
														桁行(b)耐力 Qwb	5.37	

壁の耐力(kN) Qwi = Fw × L × Kj      壁基準耐力(kN/m) Fw = 壁面1耐力 + 軸組耐力 + 土塗り壁耐力 + 壁面2耐力  
 壁の長さ(m) L : 無開口壁のみ      接合低減係数 Kj : 基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種  
 壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種  
 壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 ※が付いている面は釘による補正がかかっている面  
 壁の仕様に▲が付いている面は壁高さによる補正がかかっている面、土塗り壁  
 壁の仕様に△が付いている面、土塗り壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗り壁および長さ90cm未満の筋かい(基準耐力は0となる)  
 壁の仕様に/が付いている軸組はシングル筋かい、Xが付いている軸組はダブル筋かい  
 壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様  
 接合低減係数に\*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

2階X方向合計 Qw	25.75
------------	-------

Qw = Qwa + Qwb + Qwc

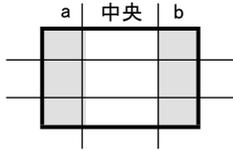
一般診断  
現状

3. 壁の耐力明細表(2階Y方向)

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)



位置	柱1	柱2	壁の仕様						壁基準 耐力 (kN/m) Fw	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 Kj	壁の 耐力 (kN) Qwi			
			壁面1	基準 耐力	軸組	低減 係数	基準 耐力	土塗り壁							基準 耐力	壁面2	基準 耐力
梁間 (a)	1	13	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	13	18	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	28	37	木ずり下地モルタル塗壁	2.20	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	3	14	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	I	IV	0.25	1.11
													梁間(a)耐力 Qwa	4.62			
梁間 (中央)	5	15	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	4.90	0.91	I	IV	0.25	1.11
	15	23	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	I	IV	0.35	1.91
	29	40	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	6	16	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	19	24	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	30	43	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	43	47	木ずり下地モルタル塗壁	2.20						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	1.82	I	IV	0.31	2.08
	47	49	木ずり下地モルタル塗壁	2.20						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.70	0.91	I	IV	0.31	1.04
	9	21	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	I	IV	0.35	1.91
	33	45	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	I	IV	0.35	1.91
													梁間(中央)耐力 Qwc	13.76			
梁間 (b)	10	22	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	I	IV	0.35	1.91
	22	26	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	0.91	I	IV	0.35	0.95
	46	53	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50						石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	3.00	1.82	I	IV	0.35	1.91
	12	17	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	27	36	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	36	44	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
	48	55	石膏ボード(非大-GNF40@200)	1.50	/筋かい(30×90)(釘打ち)	1.00	1.90			木ずり下地モルタル塗壁	2.20	5.60	0.91	I	IV	0.23	1.17
														梁間(b)耐力 Qwb	9.45		

壁の耐力(kN) Qwi = Fw × L × Kj      壁基準耐力(kN/m) Fw = 壁面1耐力 + 軸組耐力 + 土塗り壁耐力 + 壁面2耐力  
 壁の長さ(m) L : 無開口壁のみ      接合低減係数 Kj : 基礎形式と接合部仕様、壁基準耐力により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種  
 壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種  
 壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 ※が付いている面は釘による補正がかかっている面  
 壁の仕様に▲が付いている面は壁高さによる補正がかかっている面、土塗壁  
 壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かいはそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい(基準耐力は0となる)  
 壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい  
 壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様  
 接合低減係数に\*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので平屋用の接合低減係数が使用されている壁

2階Y方向合計 Qw	27.83
------------	-------

Qw = Qwa + Qwb + Qwc

一般診断  
現状

3. 壁の耐力明細表(係数表)

日付:2014年12月09日 14:30:24  
建物コード:000000  
財来一郎(在来軸組構法)

係数表

筋かい接合低減係数表

筋かい金物等	筋かきの要素基準耐力(kN/m)		
	3.0未満	3.0~5.0	5.0以上
①所定の金物	1.0	1.0	1.0
②2.0倍用金物以上	1.0	0.9	0.8
③1.5倍用金物	0.9	0.8	0.7
④釘打ち(2-N75程度)以下	0.8	0.7	0.6

胴縁下地壁 耐力・剛性 修正

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準耐力は以下とする。

基準耐力 (kN/m)	修正基準耐力 (kN/m)	
	(1) 胴縁をN75@200以下	(2) (1)の仕様以外
2以下	基準耐力 × 1.0	基準耐力 × 3/4
2超 4以下	基準耐力 × (- $\frac{1}{8}$ × 基準耐力 + 1.25)	1.5
4超	3	

柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補間して算出する

2階建ての2階、3階建ての3階

壁基準耐力(kN/m)		2.0	3.0	5.0	7.0
接合部の仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0
	II	1.0	0.8	0.65	0.5
	III	0.7	0.6	0.45	0.35
	IV	0.7	0.35	0.25	0.2

2階建ての1階、3階建ての1階及び3階建ての2階

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎の仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部の仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	II	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	IV	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

3階建ての2階の場合は、基礎の種類にかかわらず基礎仕様 I の欄を使用する

平屋建て(2階建ての下屋部分を含む)

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎の仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部の仕様	I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
	II	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
	IV	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3

総合重心を求める際の係数表

建物の重さ	$\alpha$	$\beta$
軽い建物	2.15	1.43
重い建物	2.60	2.00
非常に重い建物	2.85	3.23

床仕様	偏心率				
	Re < 0.15	0.15 ≤ Re < 0.30	0.30 ≤ Re < 0.45	0.45 ≤ Re < 0.60	0.60 ≤ Re
I	1.00	1/(3.33Re+0.5)	(3.3-Re)/(3*(3.33Re+0.5))	(3.3-Re)/6	0.450
II			(2.3-Re)/(2*(3.33Re+0.5))	(2.3-Re)/4	0.425
III			(3.6-2Re)/(3*(3.33Re+0.5))	(3.6-2Re)/6	0.400

一般診断  
現状

5. 偏心率計算表

日付:2014年12月09日 14:30:24

建物コード:000000

財来一郎(在来軸組構法)

要素名	部位別要素名	計算式	計算値
床面積 (㎡)	1階床面積	1階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	89.43
	2階床面積	2階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	77.84
重心座標	1階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	6.74
	1階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	4.61
	2階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	7.07
	2階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	4.99
	総合重心(X座標) ※	$\{\beta \times \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + \alpha \times \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} / (\beta \times 1\text{階床面積} + \alpha \times 2\text{階床面積})$	6.91
	総合重心(Y座標) ※	$\{\beta \times \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + \alpha \times \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} / (\beta \times 1\text{階床面積} + \alpha \times 2\text{階床面積})$	4.81
耐震要素 (明細-い)	耐震要素(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向耐力} \times \text{要素Y座標})$	324.92
	耐震要素(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向耐力} \times \text{要素X座標})$	472.47
	耐震要素(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向耐力} \times \text{要素Y座標})$	135.88
	耐震要素(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向耐力} \times \text{要素X座標})$	191.23
耐力 (明細-あ)	耐力(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向耐力})$	58.57
	耐力(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向耐力})$	76.70
	耐力(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向耐力})$	25.75
	耐力(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向耐力})$	27.83
剛心座標	1階剛心(X座標)	耐震要素(1階Y方向) / 耐力(1階Y方向)	6.16
	1階剛心(Y座標)	耐震要素(1階X方向) / 耐力(1階X方向)	5.55
	2階剛心(X座標)	耐震要素(2階Y方向) / 耐力(2階Y方向)	6.87
	2階剛心(Y座標)	耐震要素(2階X方向) / 耐力(2階X方向)	5.28
偏心距離 (m)	1階偏心距離(X座標)	絶対値(1階剛心(X座標) - 総合重心(X座標))	0.75
	1階偏心距離(Y座標)	絶対値(1階剛心(Y座標) - 総合重心(Y座標))	0.75
	2階偏心距離(X座標)	絶対値(2階剛心(X座標) - 2階重心(X座標))	0.21
	2階偏心距離(Y座標)	絶対値(2階剛心(Y座標) - 2階重心(Y座標))	0.30
ねじり剛性 (明細-う)	1階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向耐力} \times (\text{要素Y座標} - 1\text{階剛心(Y座標)})^2)$	403.87
	1階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向耐力} \times (\text{要素X座標} - 1\text{階剛心(X座標)})^2)$	1394.94
	1階ねじり剛性合計	1階ねじり剛性(X座標) + 1階ねじり剛性(Y座標)	1798.81
	2階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向耐力} \times (\text{要素Y座標} - 2\text{階剛心(Y座標)})^2)$	180.07
	2階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向耐力} \times (\text{要素X座標} - 2\text{階剛心(X座標)})^2)$	474.44
	2階ねじり剛性合計	2階ねじり剛性(X座標) + 2階ねじり剛性(Y座標)	654.51
弾力半径	1階弾力半径(X方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素X方向耐力})$ )	5.54
	1階弾力半径(Y方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素Y方向耐力})$ )	4.84
	2階弾力半径(X方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素X方向耐力})$ )	5.04
	2階弾力半径(Y方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素Y方向耐力})$ )	4.84
偏心率	1階偏心率(X方向)	1階偏心距離(Y座標) / 1階弾力半径(X方向)	0.14
	1階偏心率(Y方向)	1階偏心距離(X座標) / 1階弾力半径(Y方向)	0.16
	2階偏心率(X方向)	2階偏心距離(Y座標) / 2階弾力半径(X方向)	0.06
	2階偏心率(Y方向)	2階偏心距離(X座標) / 2階弾力半径(Y方向)	0.05
配置による 低減係数 eKf1	1階配置低減係数(X方向)	「3. 壁の耐力明細表(係数表)」参照  床仕様: II 火打ち+荒板	1.000
	1階配置低減係数(Y方向)		0.968
	2階配置低減係数(X方向)		1.000
	2階配置低減係数(Y方向)		1.000

一般診断  
現状

6. 偏心率計算表(明細)

日付:2014年12月09日 14:30:24

建物コード:000000

財来一郎(在来軸組構法)

[ 1階X方向 ]

属性	柱1	柱2	A	B	C	D	E
			Y座標	耐力 Sw	耐震要素 (耐力×座標) A*B	剛心Y座標 い/あ	ねじり剛性 $B * (A-D)^2$
壁	1	2	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	2	3	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	3	4	8.19	5.11	41.85	5.55	35.61
壁	6	7	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	9	10	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	11	12	8.19	3.41	27.93	5.55	23.76
壁	20	21	6.37	6.24	39.75	5.55	4.19
壁	21	22	6.37	2.18	13.89	5.55	1.46
壁	31	32	4.55	6.24	28.39	5.55	6.24
壁	32	33	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	33	34	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	35	36	4.55	3.12	14.20	5.55	3.12
壁	38	39	3.64	3.12	11.36	5.55	11.38
壁	43	44	2.28	2.24	5.11	5.55	23.95
壁	48	49	0.91	2.55	2.32	5.55	54.90
壁	51	52	0.00	2.24	0.00	5.55	68.99
壁	53	54	0.00	2.24	0.00	5.55	68.99
				58.57	324.92		403.87
				あ	い		う

一般診断  
現状

6. 偏心率計算表(明細)

日付:2014年12月09日 14:30:24

建物コード:000000

財来一郎(在来軸組構法)

[ 1階Y方向 ]

属性	柱1	柱2	A	B	C	D	E
			X座標	耐力 Sw	耐震要素 (耐力×座標) A*B	剛心X座標 い/あ	ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	13	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	3	14	1.82	3.12	5.68	6.16	58.76
壁	4	15	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	5	20	5.46	6.24	34.07	6.16	3.05
壁	6	16	7.28	2.18	15.87	6.16	2.73
壁	8	23	9.10	4.36	39.68	6.16	37.68
壁	9	24	10.01	6.24	62.46	6.16	92.49
壁	12	17	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	13	18	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	15	19	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	27	36	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	28	37	0.00	3.41	0.00	6.16	129.39
壁	29	39	3.64	3.12	11.36	6.16	19.81
壁	30	40	5.46	3.12	17.04	6.16	1.52
壁	36	41	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	37	42	0.00	2.81	0.00	6.16	106.62
壁	39	44	3.64	2.44	8.88	6.16	15.49
壁	40	45	5.46	4.66	25.44	6.16	2.28
壁	45	47	5.46	3.82	20.86	6.16	1.87
壁	46	50	12.74	3.41	43.44	6.16	147.64
壁	47	51	5.46	2.24	12.23	6.16	1.09
壁	48	54	10.01	2.24	22.42	6.16	33.20
				76.70	472.47		1394.94
				あ	い		う

一般診断  
現状

6. 偏心率計算表(明細)

日付:2014年12月09日 14:30:24

建物コード:000000

財来一郎(在来軸組構法)

[ 2階X方向 ]

属性	柱1	柱2	A	B	C	D	E
			Y座標	耐力 Sw	耐震要素 (耐力×座標) A*B	剛心Y座標 い/あ	ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	2	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	2	3	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	3	4	8.19	1.04	8.52	5.28	8.80
壁	4	5	8.19	1.04	8.52	5.28	8.80
壁	7	8	8.19	2.08	17.04	5.28	17.61
壁	8	9	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	11	12	8.19	1.17	9.58	5.28	9.90
壁	19	20	6.37	2.86	18.22	5.28	3.39
壁	20	21	6.37	0.95	6.05	5.28	1.12
壁	30	31	4.55	1.42	6.46	5.28	0.75
壁	31	32	4.55	1.42	6.46	5.28	0.75
壁	33	34	4.55	1.11	5.05	5.28	0.59
壁	34	35	4.55	0.95	4.32	5.28	0.50
壁	37	38	3.64	1.04	3.79	5.28	2.79
壁	39	40	3.64	1.17	4.26	5.28	3.14
壁	40	41	3.64	0.62	2.26	5.28	1.66
壁	42	43	3.64	0.00	0.00	5.28	0.00
壁	45	46	2.73	0.95	2.59	5.28	6.17
壁	49	50	0.91	1.17	1.06	5.28	22.34
壁	51	52	0.91	1.04	0.95	5.28	19.86
壁	52	53	0.91	1.04	0.95	5.28	19.86
壁	53	54	0.91	1.17	1.06	5.28	22.34
				25.75	135.88		180.07
				あ	い		う

一般診断  
現状

6. 偏心率計算表(明細)

日付:2014年12月09日 14:30:24

建物コード:000000

財来一郎(在来軸組構法)

[ 2階Y方向 ]

属性	柱1	柱2	A	B	C	D	E
			X座標	耐力 Sw	耐震要素 (耐力×座標) A*B	剛心X座標 い/あ	ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	13	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	3	14	1.82	1.11	2.02	6.87	28.30
壁	5	15	3.64	1.11	4.04	6.87	11.58
壁	6	16	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	9	21	9.10	1.91	17.38	6.87	9.49
壁	10	22	10.01	1.91	19.12	6.87	18.83
壁	12	17	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	13	18	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	15	23	3.64	1.91	6.95	6.87	19.92
壁	19	24	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	22	26	10.01	0.95	9.51	6.87	9.36
壁	27	36	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	28	37	0.00	1.17	0.00	6.87	55.22
壁	29	40	3.64	0.95	3.46	6.87	9.91
壁	30	43	5.46	0.95	5.19	6.87	1.88
壁	33	45	9.10	1.91	17.38	6.87	9.49
壁	36	44	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
壁	43	47	5.46	2.08	11.36	6.87	4.13
壁	46	53	10.01	1.91	19.12	6.87	18.83
壁	47	49	5.46	1.04	5.68	6.87	2.06
壁	48	55	12.74	1.17	14.91	6.87	40.31
				27.83	191.23		474.44
				あ	い		う

**一般診断  
現状**

**7. 劣化度による低減係数**

日付: 2014年12月09日 14:30:24

建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数			
			築10年未満	築10年以上	部位なし	劣化あり	劣化なし	
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	-	2	①	
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある						
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	-	2	①	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	-	2	①	
外壁仕上げ	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	-	④	0	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある						
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある						
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある						
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	-	2	①	
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	/	①	-	①	0	
		窯業系サイディング						こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある
		金属サイディング						変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある
	外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある		①		-	1	①
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	/	①	-	1	①	
内壁	一般室	内壁、窓下	2	②	-	2	①	
	浴室	タイル壁	2	②	-	2	①	
		タイル以外						水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある
床	床面	一般室	2	②	-	②	0	
		廊下	/	①	-	1	①	
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	-	2	①	
合計			24			7		

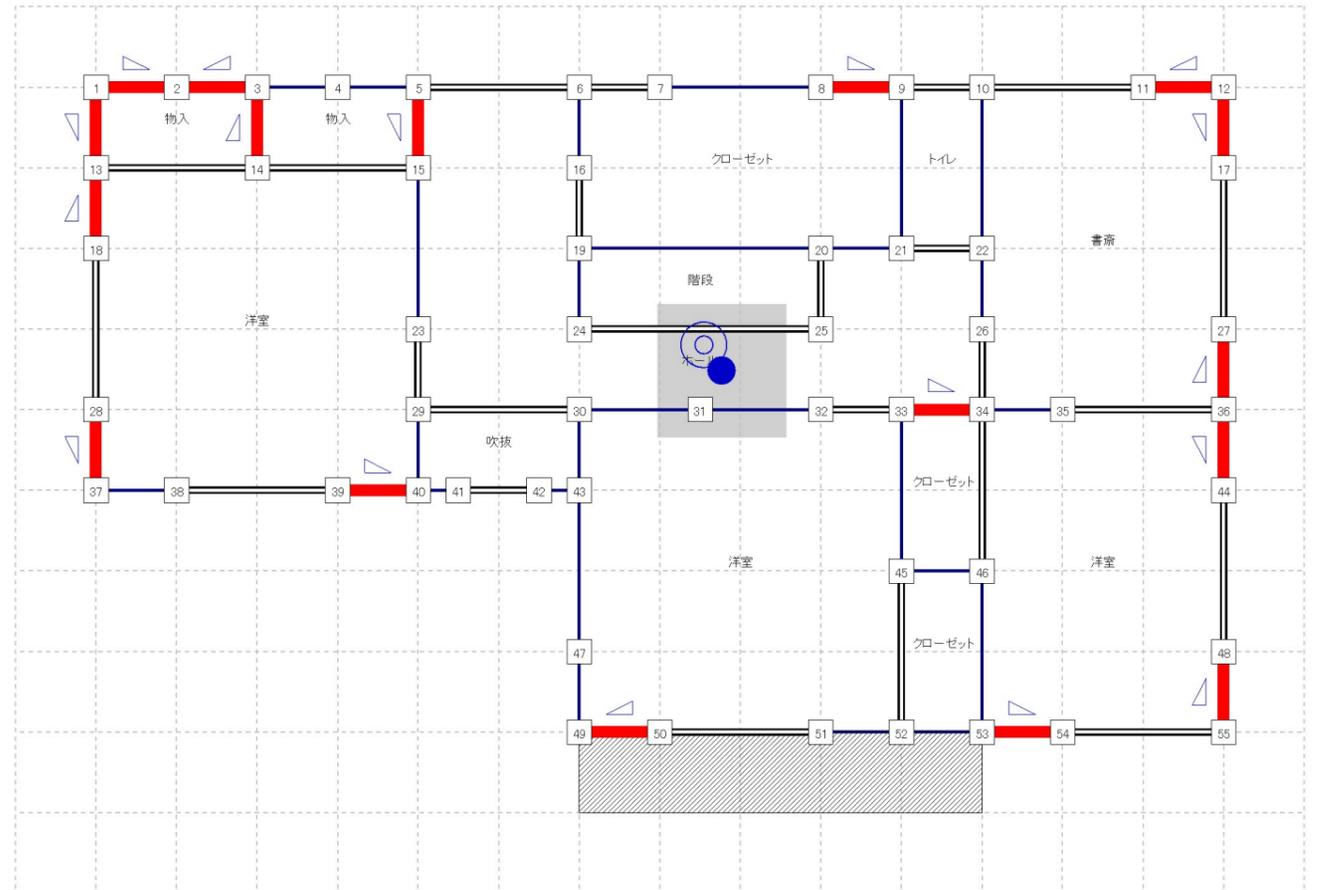
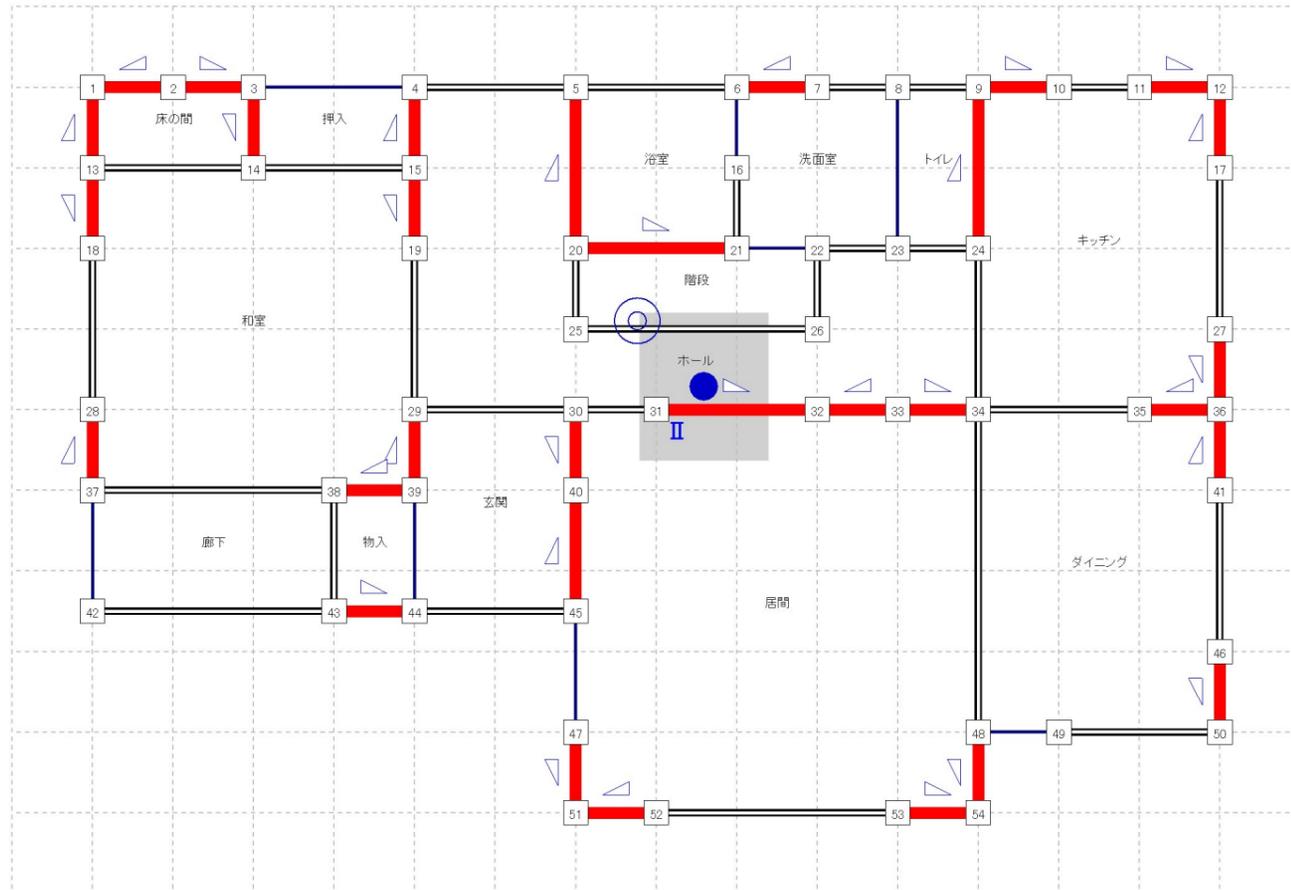
劣化度による低減係数 dK 1-(劣化点数/存在点数) = **0.70**

注) 低減係数が0.7以上となった場合はその数値を、0.7未満の場合は、0.7とします。

※劣化の種類について  
 築10年未満の住宅で起きている劣化現象は、建築時の不具合による可能性が極めて高いと言えます。そのような不具合による劣化が関係するのは、上記表の「/」以外の部位にあたります。  
 築10年以上の住宅では、時間の経過による自然な劣化がおきてきます。このような自然の劣化には、上のすべての項目が関係してきます。  
 ただし、築10年未満の住宅であっても、「/」以外の部位に劣化が発見された場合は、築10年以上の住宅と同様に、すべての項目について調査を行います。

1階

2階

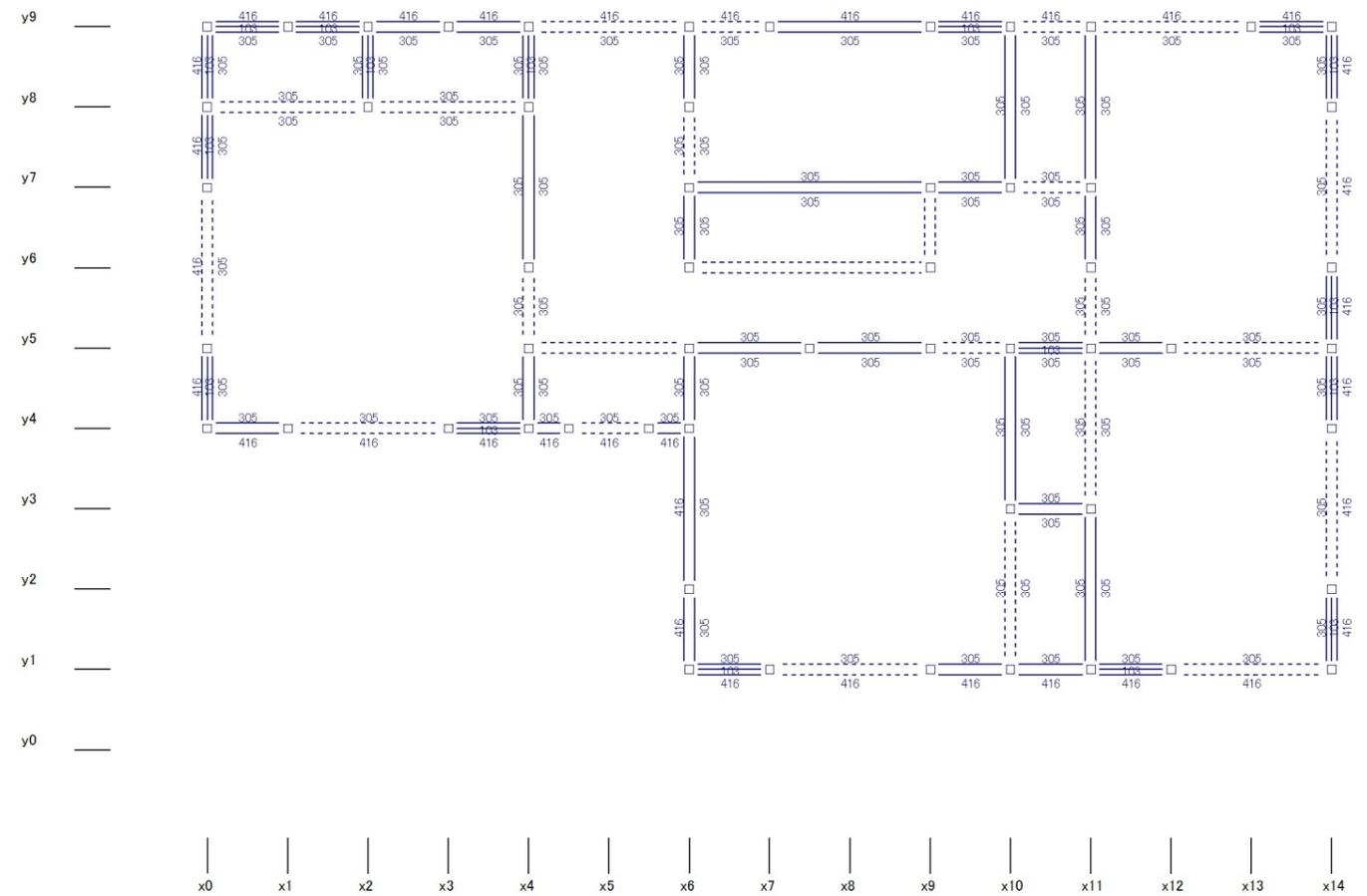
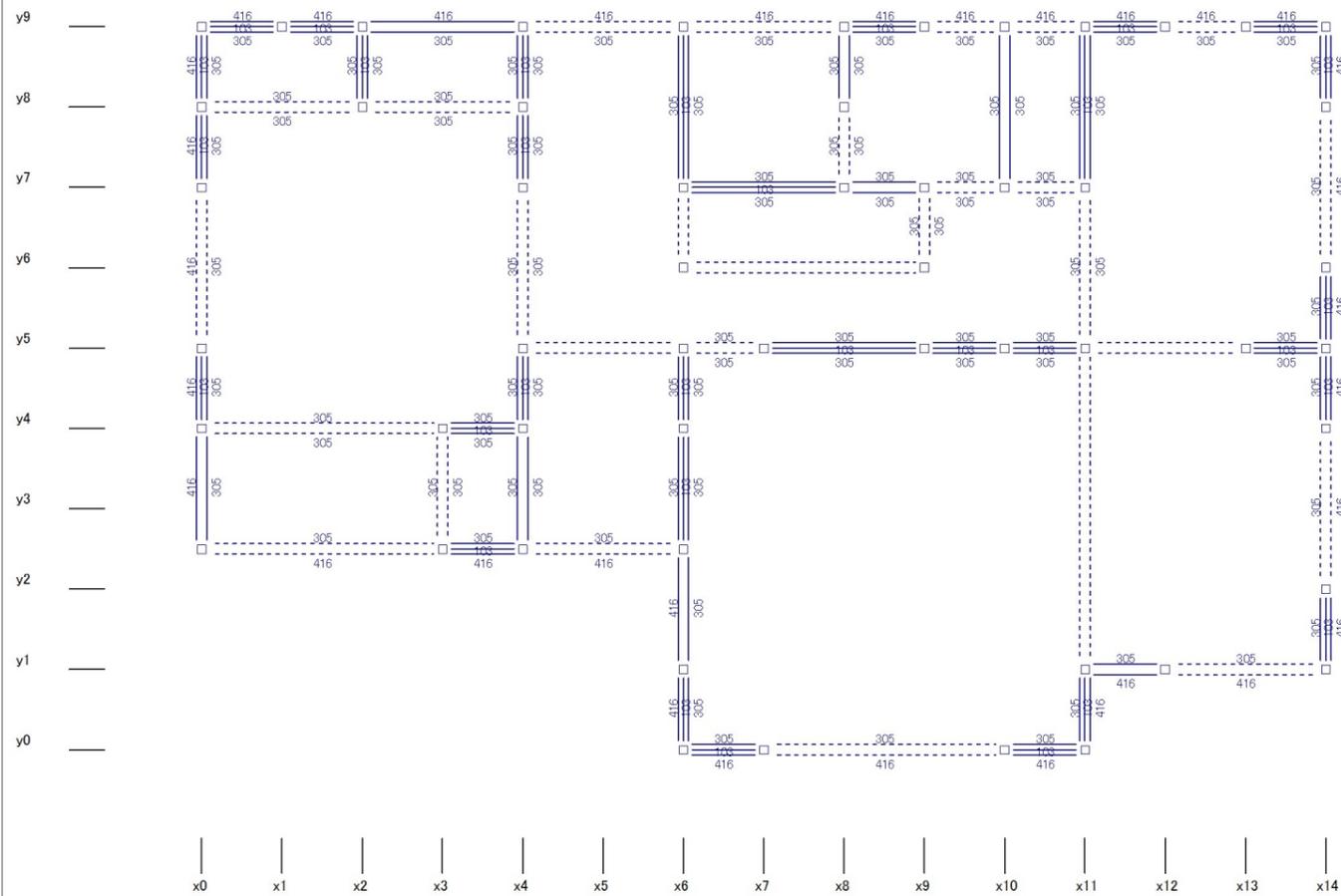


縮尺 1/80

- 凡例
- 一般壁 (黒線)
  - 開口部 (破線)
  - 耐力壁 (赤線)
  - バルコニー (斜線)
  - 小屋裏収納等 (点線)
  - オーバーハング (緑線)
  - 柱 (白)
  - 通し柱 (黒)
  - 重心 (青丸)
  - 剛心 (青円)
  - 偏心率0.15範囲(剛心が内側にあれば低減無し) (青)
  - 筋かいシングル (黒)
  - 筋かいダブル (赤)
  - 面材耐力壁 (青)
  - 部分入力雑壁 (黒)
  - I, II 柱接合部 I, II (III, IVは表記省略)

1階

2階



縮尺 1/80

凡例

- 無開口壁(面1、軸組、面2)
- - - 開口壁(面1、軸組、面2)
- 柱

壁材種コード 103:筋かい(30×90)      305:石膏ボード(非大-GNF40@200川)      416:木張り下地&ルル塗壁

一般診断  
現状

立面図

日付: 2014年12月09日 14:30:24

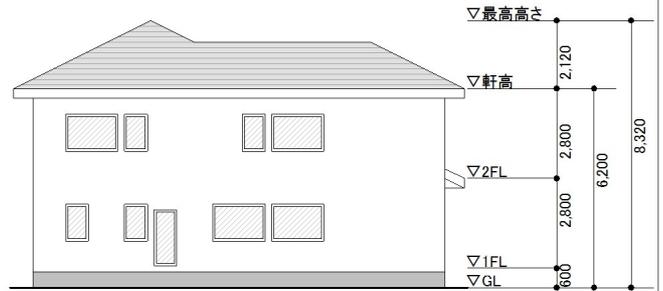
建物コード: 000000

財来一郎(在来軸組構法)

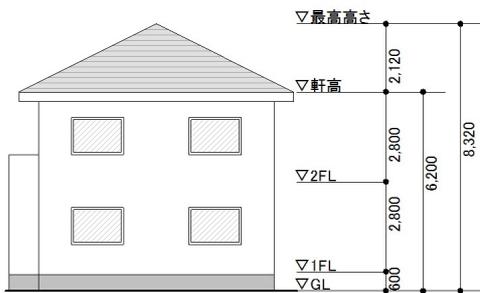
南立面図



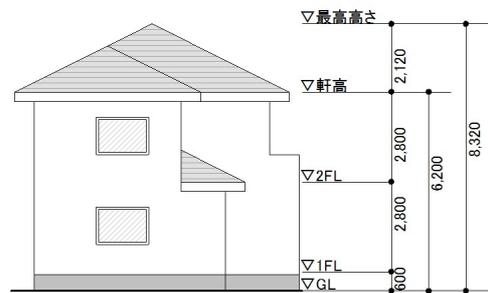
北立面図



東立面図



西立面図



一般診断  
現状

補強アドバイス

日付: 2014年12月09日 14:30:24  
建物コード: 000000  
財来一郎(在来軸組構法)

目標評点 1.5 (1.0)

補強アドバイス

分類	項目	アドバイス	場所
バランス	配置	配置のバランスが良くないので、壁に関する補強は建物の弱い側よりの壁に関して重点的に行うと効果的です。	1階右側Y方向
壁関連	一般壁	壁が少ないので、壁を増やすことによって評点を上げることができます。	1階X方向
	筋かい	筋かいを追加・強化することによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	開口	開口の割合が高いので、開口部を通常の壁に変えることによって評点を上げることができます。	1階X方向 2階X方向
	木製筋かい接合部		
	柱頭柱脚接合部	両脇の柱の接合部の強さが十分でない壁があるので、強い接合金物を使うことによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	外壁面材	外壁に面材耐力壁を張ることによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	内壁面材	内壁に面材耐力壁を張ることによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
柱関連	柱太さ		
その他	建物重量	建物が重いので、軽くすることによって評点を上げることができます。	
	基礎	基礎の状態が十分ではないので、基礎を改修するか補強することによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向
	床仕様		
	劣化	劣化している部位があるので、劣化を修復することによって評点を上げることができます。	

アドバイスは、補強をすることによって上部構造評点を上げることができる項目について表示されます。  
場所は、補強の効果がある階、方向が示されます。

一般診断  
 現状

ホームズ君の絵でみる 総合診断書

現状  
 0.52

階	方向	配置低減係数	劣化低減係数	保有耐力 (kN)	必要耐力 (kN)	上部構造評点
2	X	1.000	0.70	24.00	43.60	×
	Y	1.000		23.10		×
1	X	1.000		46.90	76.02	×
	Y	0.968		55.57		△

上部構造評点	判定内容	判定
1.5以上	倒壊しない	◎
1.0以上1.5未満	一応倒壊しない	○
0.7以上1.0未満	倒壊する可能性がある	△
0.7未満	倒壊する可能性が高い	×

$$\text{上部構造評点} = \frac{\text{保有耐力}}{\text{必要耐力}}$$

現状

必要耐力 (Qr) 必要耐力計算方法 略算法 精算法

階	床面積(m <sup>2</sup> )	必要耐力係数	多雪区域加算	地震係数Z	軟弱地盤割増	形状割増	混構造割増	必要耐力Qr(kN)
2	77.84	0.56	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00	43.60
1	89.43	0.85				1.00	1.00	76.02

必要耐力係数:  軽い建物  重い建物  非常に重い建物

多雪区域加算:  一般(0.00)  多雪地域(0.26~0.52)

地震係数Z:  その他(0.7~0.9)  一般地域(1.0)

軟弱地盤割増:  通常(1.00)  割増(1.50)

形状割増: 通常(1.00) 形状割増(1.15, 1.30) 1F 2F

混構造割増:  木造(1.00)  RCまたは鉄骨(1.20)

保有耐力 (Pd) 配置低減計算方法 4分割法 偏心率

階	方向	無開口壁耐力 (kN)	その他の耐震要素の耐力 (kN)	耐力要素の配置・床仕様による低減係数 (偏心率)	劣化度による低減係数	保有耐力 Pd (kN)
2	X	25.75	8.54	1.000 (0.06)	0.70	24.00
	Y	27.83	5.18	1.000 (0.05)		23.10
1	X	58.57	8.43	1.000 (0.14)		46.90
	Y	76.70	5.32	0.968 (0.16)		55.57

柱頭柱脚接合部仕様:  接合部 I  接合部 II  接合部 III・IV

基礎仕様:  基礎 I  基礎 II  基礎 III

床仕様:  I 合板  II 火打ち+荒板  III 火打ちなし

配置低減係数表:

配置低減係数	1階 X方向	1階 Y方向	2階 X方向	2階 Y方向
1.00	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
0.75~0.99	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
0.50~0.74	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
~0.49	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

劣化度による低減係数:  1.00 劣化なし  0.9~1.0  0.8~0.9  0.7~0.8

接合部 I: ホールダウン金物など

接合部 II: 羽子板ボルト, 山形プレート, かど金物

接合部 III・IV: ほぞ差し, かすがい

基礎 I: べた基礎, 健全な鉄筋コンクリート

基礎 II: ひび割れのある鉄筋コンクリート, 無筋コンクリート, 玉石基礎

基礎 III: その他の基礎

補強・改修をすると評点が上がります。

評点分析

1階X方向 基本壁量(低減前) 評点: 0.61

1階Y方向 基本壁量(低減前) 評点: 0.73

2階X方向 基本壁量(低減前) 評点: 0.55

2階Y方向 基本壁量(低減前) 評点: 0.52

